



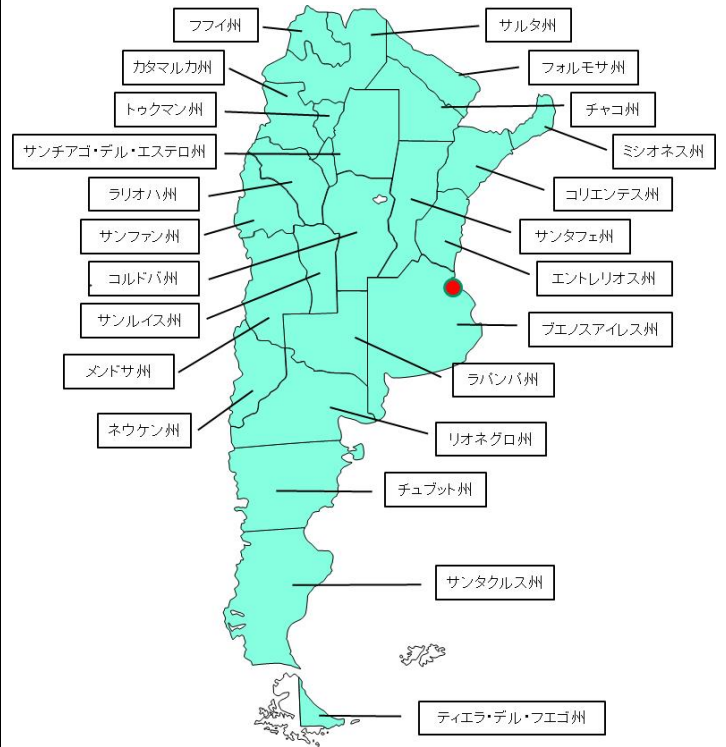
南米[アルゼンチン]

1 農・畜産業の概況

アルゼンチンの農業が国内産業に占める比率は、実質国内総生産(GDP)の 5.8%と大きくないが、農産物輸出額は全輸出額の5割強を占め、農業は外貨獲得上、極めて重要な地位にある。2012年の農林水産品(1次産品、加工品を含む)の輸出額(FOB)は、465億2400万ドル(前年比3.9%減)となった。主要輸出品の穀物は、95億3000万ドル(同12.0%増)と好調だった。

アルゼンチンの農業経営体28万戸の所有面積は、1億5500万ヘクタールで、このうち農耕地が4650万ヘクタール、1億850万ヘクタールが牧草地として利用されている。ブエノスアイレス州、コルドバ州、サンタフェ州を中心とするパンパ地域は、平たん、かつ肥沃な土地条件に加え、気候も温暖で降雨も見込めるため、農畜産物の主要産地となっている。

図1 アルゼンチンの地図(行政区分)



資料：機構作成
注：赤印は、ブエノスアイレス特別区。

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

アルゼンチンの酪農は放牧主体であり、生乳生産はパンパ地域に集中している。主な生乳生産州はコルドバ州(全生産量の37%を占める)、次いでサンタフェ州(同32%)、ブエノスアイレス州(同25%)である。乳牛の主要品種はホルスタイン種で、全飼養頭数の98%を占めている。

① 生乳の生産動向

2012年の生乳生産量は、1134万キロリットル(前年比1.2%増)となり、2008年以降5年連続して1000万キロリットルを上回っている。

② 牛乳・乳製品の需給動向

2012年の牛乳・乳製品の消費量(生乳換算ベース)は、891万8000キロリットルと生乳生産量の78.6%を占め、1人当たり年間消費量は216リットルとなった。このうち飲用乳は同43.9リットル、乳製品は同32.4キログラムとなっている(表1)。

乳製品の生産量の内訳は、ヨーグルトが51万4000トン(前年比0.5%減)、チーズが56万4000トン(同5.2%増)、粉乳が31万3000トン(同1.8%減)などとなっている。

2012年の乳製品の輸出量は、43万トン(前年比4.7%減、製品重量ベース)、輸出額では15億6000万ドル(同10.4%減)となった。アルゼンチンは全粉乳輸出で世界第3位に位置するなど世界の主要乳製品輸出国として数えられる中、2011年は国際的な粉乳需要の高まりを受け、主要乳製品の中では全粉乳のみ増加する結果となった。また、2012年は、前年と比べて米ドルに対してペソ安で推移したため輸出に有利な為替環境となったものの、他の主要乳製品輸出国の生産・輸出も好調であったため、輸出量は相対的に減少した。品目別の輸出量は、全粉乳に続き、業界が輸出に力を入れているホエイ、チーズが続いている。

2012年の輸出内訳を見ると、ベネズエラ、ブラジル、アルジェリアの主要輸出先3カ国で全体の57%を占めている。最大の輸出品目である全粉乳は、約38%がベネズエラに輸出された。

表1 牛乳・乳製品の需給

(単位:千トン、千キロリットル、リットル)

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
生乳生産量	10,010	10,055	10,308	11,206	11,339
輸出量	280	307	317	450	429
輸入量	15	10	13	19	26
消費量	8,030	8,159	8,304	8,393	8,918
1人当たりの消費量	202	203	205	210	216

資料:アルゼンチン農牧漁業省(MAGyP)

注:生乳生産量、消費量、1人当たりの消費量は、生乳換算ベース。
輸出量、輸入量は製品重量ベース。

③ 牛乳・乳製品の価格動向

2012年の生乳価格(乳業メーカーによる生乳1リットル当たりの生産者支払い価格)は、国内の消費が増加したことに加え、乳製品の国際価格が堅調であったことを反映して、1リットル当たり1.57ペソ(前年比4.5%高)となった。

(2) 肉牛・牛肉産業

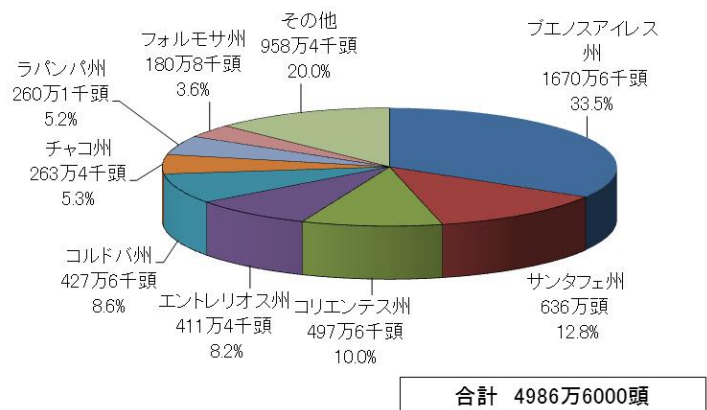
アルゼンチンの肉牛生産は、肥沃なパンパ地域を中心に、アンガス、ヘレフォードなどヨーロッパ品種およびその交雑種による放牧肥育が一般的である。

2007年5月に北パタゴニアB地域と呼ばれるリオネグロ州とネウケン州は、新たな口蹄疫ワクチン不接種清浄地域のステータスを獲得した。また、BSEの清浄性は無視できるリスクの国と評価されている。

① 牛の飼養動向

牛飼養頭数は、2008年以降、干ばつや肉牛経営の収益悪化などから繁殖雌牛のと畜が進んだため、前年を下回って推移していたが、生体価格の上昇により増頭意欲が増したことで、2012年は4987万頭(前年比3.9%増)となった(図1)。州別では、ブエノスアイレス州(34%)、サンタフェ州(13%)、コリエンテス州(10%)の3州で全体の6割弱を占めている(図2)。

図2 牛の州別飼養頭数(2012年)



資料: SENASA

② 牛肉の需給動向

ア 生産

2012年のと畜頭数は、1143万頭(前年比5.2%増)、牛肉生産量(枝肉重量ベース)は260万トン(同4.0%増)となった(表2)。輸出登録制度や輸出課徴金制度といった政府の輸出管理政策、また、大豆の栽培面積拡大による放牧地の減少、2008年から2009年前半にかけての干ばつの影響などによる繁殖雌牛のとう汰などにより、飼養頭数が減少していたが、牛群再構築の結果、2012年のと畜頭数は前年から増加した。

イ 輸出

2012年の牛肉輸出量(枝肉重量ベース)は、政府の輸出管理政策や干ばつなどによる成牛の飼養頭数の減少から18万4000トン(前年比26.7%減)となった(表2)。また、輸出額は9億7700万ドル(同22.9%減)となった。

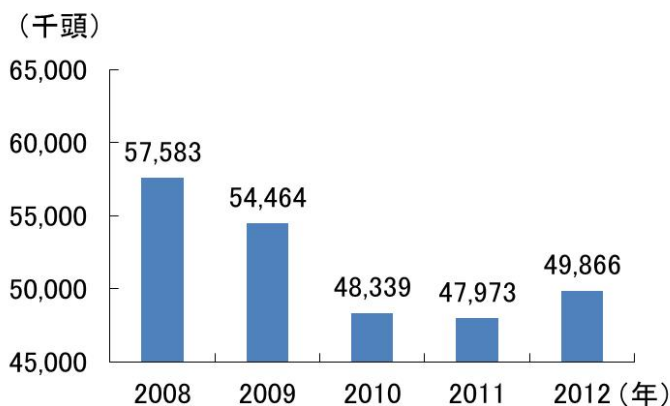
表2 牛肉需給の推移

区分/年	2008	2009	2010	2011	2012
牛と畜頭数(千頭)	14,660	16,053	11,863	11,883	11,429
生産量(千トン)	3,132	3,376	2,626	2,497	2,596
輸出量(千トン)	429	661	310	251	184
1人当たり消費量(kg)	68	68	57	55	59
去勢牛生体価格(ペソ/kg)	3	3	7	8	9

資料: MINAGRI

注: 生産量、輸出量は枝肉重量ベース

図3 牛飼養頭数の推移



資料: SENASA(国家動植物衛生機構)

牛肉の種類別内訳(製品重量ベース)を見ると、生鮮肉は8万7500トン(前年比26.5%減)、加工肉が1.8万トン(同30.2%減)などであった。輸出先国別シェアでは、生鮮肉はチリ向けが30.4%、イスラエル向けが23.0%、ロシア向けが17.2%などとなっている。

また、EU向けのヒルトン枠(一定基準を満たすEUにおける骨なし高級生鮮牛肉に係る関税割当制度、対象期間は7月1日～翌年6月30日)は、ドイツ向けが全体の6割を占めた。なお、ヒルトン枠による年間配分数量は、2004/05年度以降2万8000トンであったが、2011/12年度は2万9375トンに引き上げられ、さらに2012/13年度には3万トンに引き上げられた。しかし、輸出実績は6年連続で割当数量に満たなかった。

ウ 消費

2012年の1人当たりの年間牛肉消費量は、59キログラム(前年比7.3%増)となった(表2)。増加の背景には、北米の干ばつに伴う国際的な飼料穀物価格の上昇を受け、アルゼンチン国内の鶏肉、豚肉価格も上昇したため、相対的に割安感があった牛肉の消費が増加したことが挙げられる。

③ 価格動向

主要な家畜市場であるリニエルス家畜市場(ブエノスアイレス市)における2012年の肥育牛(去勢牛)価格は、生体1キログラム当たり8.9ペソ(前年比8.5%高)となった(表2)。サーロインの小売価格は、1キログラム当たり37.5ペソ(同20.0%高)となった。

3 飼料穀物

アルゼンチンのトウモロコシ生産量は、世界の約 3%であるが、同国の牛肉生産が放牧中心であることから、飼料としての国内需要は少ない。このため、同国の 2012/13 年度(3 月～翌 2 月)のトウモロコシ輸出量は世界貿易量の約 23%を占め、ブラジルに次ぐ世界第 2 位となっている。しかし、トウモロコシ生産の収益は、大豆に比べ低いことから、生産は減少傾向にある。

一方、大豆生産量は世界の約 2 割を占めており、大豆の国際市場に大きな影響力を持つ。トウモロコシと大豆は作付け時期が重なり競合するため、それぞれの価格動向が作付面積に影響する。また、小麦は、大豆の裏作として生産される冬小麦が生産の大部分を占める。

① 主要な政策

アルゼンチンでは、穀物輸出において、主に 2 つの政策がとられている。輸出登録制度と輸出課徴金制度である。

輸出登録制度は、国内の主要な食料価格の上昇抑制のため 1976 年に採択された制度で、輸出限度数量や輸出許可書の有効期間などが定められている。本制度は、国内への食料安定供給を目的としており、かつてはトウモロコシと小麦については輸出限度数量が撤廃された時期もあったが、以降、輸出が拡大する中で、輸出許可数量は再設定され、2012/13 年度は当初 1500 万トンに設定された。同年度においては同国の生産量が大幅に増加した一方、世界的にはトウモロコシ需給がひっ迫したため、最終的に輸出許可数量は 2300 万トンまで引き上げられた。

輸出課徴金制度は、2002 年 1 月の通貨切り下げに伴う大幅な税収減を補完するため、通貨切り下げで恩恵を受ける主要輸出農畜産物に対し設けられたもので、2002 年 3 月より実施された。しかし、経済回復に伴うインフレの進行で食料品価格が上昇したため、農産品の国内供給の安定を図ることを目的として、品目ごとに数次の税率変更を行われ、2013 年 3 月現在の税率は、トウモロコシ 20%、大豆 35%となっている。

② 飼料穀物の需給動向

2012/13 年度のトウモロコシ生産量は、3212 万トン(前年度比 51.5%増)となった。また、大豆については、4931 万トン(同 23.0%増)となった(表 3)。

一方、輸出量については、トウモロコシは 2279 万トン(同 38.1%増)、大豆は 774 万トン(同 5.0%増)となった。品目別の主な輸出先国を見ると、トウモロコシはコロンビア、アルジェリアおよび韓国、ソルガムは日本およびコロンビア、小麦はブラジル、大豆(粒)は中国、大豆油はインド、大豆油かすはインドネシアとなっている。

表3 主要穀物生産量の推移

区分／年度		2008/09	2009/10	2010/11	2011/12	2012/13
トウモロコシ	作付面積(千ha)	3,501	3,671	4,561	5,000	6,133
	収穫面積(千ha)	2,363	2,904	3,748	3,696	4,864
	生産量(千t)	13,134	22,663	23,800	21,197	32,119
	単収(t/ha)	5.56	7.80	6.35	5.74	6.60
大豆	作付面積(千ha)	18,043	18,344	18,902	18,671	20,036
	収穫面積(千ha)	16,771	18,131	18,765	17,577	19,419
	生産量(千t)	30,989	52,675	48,889	40,100	49,306
	単収(t/ha)	1.85	2.91	2.61	2.28	2.54
小麦	作付面積(千ha)	4,734	3,557	4,582	4,631	3,162
	収穫面積(千ha)	4,266	3,273	4,532	4,496	3,019
	生産量(千t)	8,376	9,023	15,876	14,501	8,025
	単収(t/ha)	1.96	2.76	3.50	3.23	2.66
ソルガム	作付面積(千ha)	829	1,033	1,233	1,266	1,158
	収穫面積(千ha)	460	755	1,013	914	890
	生産量(千t)	1,810	3,637	4,458	4,252	3,636
	単収(t/ha)	3.94	4.82	4.40	4.65	4.09

資料: MINAGRI

③ 価格動向

2012年の穀物1トン当たりの生産者販売価格は、トウモロコシが715.0ペソ(前年比1.7%高)、大豆が1652.4ペソ(同26.5%高)、ソルガムが693.3ペソ(同0.2%安)となった(表4)。

表4 主要穀物の生産者販売価格の推移

(単位: ペソ/トン)

区分／年	2008	2009	2010	2011	2012
トウモロコシ	447.6	422.0	551.5	703.4	715.0
大豆	751.0	947.4	1028.4	1306.2	1652.4
ソルガム	337.1	360.7	423.4	695.0	693.3

資料: MINAGRI